

応用数学 B

ガウスの発散定理とストークスの定理

韓 承鎬

電気通信大学

November 11, 2018

線積分、面積分、体積分

- 線積分：空間曲線 $C : (\mathbf{c}(u))_{u=a}^b$
 - スカラー場： $\int_a^b f(\mathbf{c}) \left| \frac{d\mathbf{c}}{du} \right| du$
 - ベクトル場： $\int_C \mathbf{f} \cdot d\mathbf{c}$
- 面積分：空間曲面
 $\mathbb{S} : (\mathbf{s}(u, v))_{(u,v) \in \mathbb{D}} = (s_x(u, v), s_y(u, v), s_z(u, v))_{(u,v) \in \mathbb{D}}$
 - スカラー場： $\iint_{\mathbb{S}} f d\mathbb{S} = \iint_{\mathbb{D}} f(\mathbf{s}) \left| \frac{\partial \mathbf{S}}{\partial u} \times \frac{\partial \mathbf{S}}{\partial v} \right| dudv$
 - ベクトル場： $\iint_{\mathbb{S}} \mathbf{f} \cdot d\mathbf{S}$
- 体積分：座標変換 $(x, y, z) \in \mathcal{V}$ から $(u, v, w) \in \mathcal{U}$
 - ヤコビアン： $|J| = \left| \frac{\partial(x,y,z)}{\partial(u,v,w)} \right|$
 - スカラー場： $\iiint_{\mathcal{V}} f d\mathcal{V} = \iiint_{\mathcal{U}} f dx dy dz = \iiint_{\mathcal{U}} f(x(u, v, w), y(u, v, w), z(u, v, w)) |J| dudvdw$
 - ベクトル場： $\iiint_{\mathcal{V}} \mathbf{f} d\mathcal{V} = \iiint_{\mathcal{U}} (f_x \mathbf{e}_x + f_y \mathbf{e}_y + f_z \mathbf{e}_z) d\mathcal{V}$

ガウスの発散定理

Theorem

空間曲面閉曲面 \mathcal{S} によって囲まれた領域 \mathcal{V} がベクトル場 \mathbf{f} であるとき

$$\iiint_{\mathcal{V}} \nabla \cdot \mathbf{f} d\mathcal{V} = \iint_{\mathcal{S}} \mathbf{f} \cdot \mathbf{n} d\mathcal{S} = \iint_{\mathcal{S}} \mathbf{f} \cdot d\mathbf{S}$$

ただし、法線ベクトル \mathbf{n} は外向きにとるものとする。

連続した空間でのベクトル場の発散の総量は、それを包む局面の面積分となる。

証明

基本的な原理

連続した空間の内部では、一つの面が出ていくと、隣の面に入る
ので、総和はゼロとなる。

例：東京都の人口移動

ストークスの定理

Theorem

空間曲面ベクトル場 \mathbf{f} 内に曲面 S があり, その境界が閉曲線 C であるとする. 曲面の単位法線ベクトル \mathbf{n} を S の正の側にとり, C を正の方向にまわるとき

$$\iint_S \nabla \times \mathbf{f} \cdot d\mathbf{S} = \oint_C \mathbf{f} \cdot d\mathbf{c}$$

ただし, 法線ベクトル \mathbf{n} は外向きにとるものとする.

連続した平面でのベクトル場の回転の総量は、それを囲む曲線の接線線積分となる。

証明

基本的な原理

連続した平面の内部では、一つの線が正の方向で回ると、隣の線は負となるので、総和はゼロとなる。

例 (ガウスの発散定理)

半球面 $\mathbb{S} : x^2 + y^2 + z^2 = 1, z \geq 0$ 上において, ベクトル場 $\mathbf{f} = (xz, yz, 0)$ の面積分 $\iint_{\mathbb{S}} \mathbf{f} \cdot d\mathbf{S}$ を計算せよ.

例 (ストークスの定理)

球面 $x^2 + y^2 + (z - 3)^2 = 3^2$ と平面 $z = x + 3$ の交わりを C とし, 原点からみて時計回りを正の向きとする. このとき, ベクトル場 $\mathbf{f} = (2y, z, 3y)$ について線積分 $\oint_C \mathbf{f} \cdot d\mathbf{c}$ を計算せよ.

練習問題

ガウスの発散定理

半径 r , 高さ h の円筒内の領域を \mathcal{V} とし, ベクトル場

$$\mathbf{f}(x, y, z) = \left(\frac{x}{\sqrt{x^2 + y^2}}, \frac{y}{\sqrt{x^2 + y^2}}, 0 \right)$$

について体積分 $\iiint_{\mathcal{V}} \nabla \cdot \mathbf{f} dV$ を求めよ.

ストークスの定理

$x^2 + y^2 = 1, z = 0$ で表される曲線を C とする. 3次元のベクトル場 $\mathbf{f}(x, y, z) = (2x + 3y, 3x - 5y, 0)$ について, ストークス定理を利用し, $\oint_C \mathbf{f} \cdot d\mathbf{c}$ を求めよ.